

第3章 記念物・文化的景観

1 史跡

(1) 被災状況

発災当時、県内で国又は県の指定等を受けていた史跡 122 件の 12.2%にあたる 15 件が被災した。その内訳は、国指定 10 件、県指定 5 件である。また、市町村指定の史跡も 9 件被災している（表 3-4）。

(2) 復旧状況

令和 7 年（2025 年）3 月 31 日現在、被災した国又は県指定等の史跡 15 件のうち国指定 9 件、県指定 5 件の復旧が完了し、史跡の復旧率は 93.3%となっている（表 3-4）。

表 3-4 令和 2 年 7 月豪雨における指定等文化財の被災及び復旧状況（史跡）

令和 7 年（2025 年）3 月 31 日現在					
	指定件数 (被災当時)	被災		復旧	
		件数※1	割合	件数	割合
国県指定等 合計	122 件	15 件 (15 件)	12.2%	14 件	93.3%
国指定	42 件	10 件 (10 件)	23.8%	9 件	90.0%
県指定	80 件	5 件 (5 件)	6.2%	5 件	100%
国登録	-	-	-	-	-
(参考) 市町村指定 合計	551 件	9 件	1.6%		

※1 () 内の数値は、復旧対象件数
※2 「-」は該当なし

2 名勝

(1) 被災状況

発災当時、県内で国又は県の指定等を受けていた名勝の被害は報告されていない。市町村指定の名勝の被害も報告されていない。

3 天然記念物

(1) 被災状況

発災当時、県内で国又は県の指定を受けていた天然記念物 62 件の 1.6%にあたる 1 件が被災した。その内訳は、国指定 1 件である。市町村指定の天然記念物の被害は報告されていない（表 3-5）。

表 3-5 令和2年7月豪雨における指定等文化財の被災及び復旧状況（天然記念物）

令和7年（2025年）3月31日現在

	指定件数 (被災当時)	被災		復旧	
		件数※1	割合	件数	割合
国県指定等 合計	62 件	1 件 (1 件)	1.6%	1 件	100%
国指定	25 件	1 件 (1 件)	4.0%	1 件	100%
県指定	36 件	0 件 (0 件)	0.0%	-	-
国登録	1 件	0 件 (0 件)	0.0%	-	-
(参考) 市町村指定 合計	248 件	3 件	1.2%		

※1 () 内の数値は、復旧対象件数

※2 「-」は該当なし

（2）復旧状況

令和7年（2025年）3月31日現在、被災した国又は県指定の天然記念物1件すべての復旧が完了している（表3-5）。

4 文化的景観

（1）被災状況

発災当時、県内で国の選定を受けていた重要文化的景観10件の10%にあたる1件が被災した（表3-6）。

（2）復旧状況

令和7年3月31日現在、被災した国選定重要文化的景観1件すべての復旧が完了している（表3-6）。

表 3-6 令和2年7月豪雨における指定等文化財の被災及び復旧状況（重要文化的景観）

令和7年（2025年）3月31日現在

	指定件数 (被災当時)	被災		復旧	
		件数※1	割合	件数	割合
国選定 合計	10 件	1 件 (1 件)	10.0%	1 件	100%

※1 () 内の数値は、復旧対象件数

【復旧事例】

ひとよしじょうあと
人吉城跡

1 基本情報

(1) 種別

国史跡

(2) 指定年月日

昭和 36 年（1961 年）9 月 2 日

国史跡指定

平成 15 年（2003 年）8 月 27 日

国史跡追加指定

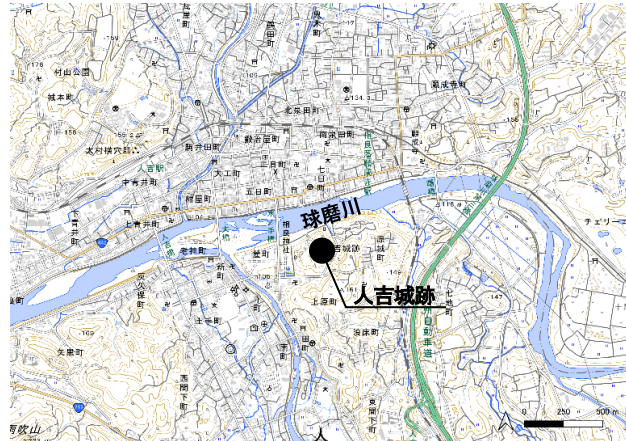


図 3-5 人吉城跡位置図

(3) 所在地

人吉市

(4) 所有者

人吉市・相良神社ほか（管理団体 人吉市）

(5) 文化財概要

人吉城跡は、鎌倉時代から幕末までの約 700 年間、当地を支配した相良氏が居住した中世城館・近世城郭の跡で、球磨川と胸川を天然の堀として築城している点に特徴がある。相良氏が城の修築をしている際、織月石（人吉市有形文化財（歴史資料））という三日月模様の石が出土したため、「織月城」とも称される。

2 浸水状況

人吉城跡は、球磨川左岸に位置する。城跡北側を球磨川が西側を胸川が流れており、河川に面して高さ約 8 m の石垣が築かれている。令和 2 年 7 月豪雨発災当時、西外曲輪周辺で 2.5 m 程度の深さまで浸水したと想定される⁴⁰。また、人吉城跡付近の球磨川の零点高は標高 101.61 m であるのに対し、令和 2 年 7 月豪雨発災当時のピーク水位は標高 107.78 m となっており、6 m 以上水位が上昇し石垣天端近くまで水が迫っていたことが分かる。

なお、豪雨前の人吉城跡周辺の洪水浸水想定区域（最大規模）は 1.0 m～2.0 m の区域とされていたが、豪雨後に改定された人吉市総合防災マップでは 5.0 m～10.0 m 未満の区域となっている。

⁴⁰ 国土交通省国土地理院 HP (https://www.gsi.go.jp/BOUSAI/R2_kyusyu_heavyrain_jul.html#9) より推定。
地理院ホーム＞防災・災害対応＞令和 2 年 7 月豪雨に関する情報（提供情報一覧 2. 浸水推定図）

3 被害概要

人吉城跡では、石垣の孕み出し2箇所、法面崩落7箇所、土砂堆積2曲輪、石垣背面洗堀・地面陥没2曲輪、復元建造物・復元堀浸水5棟のほか、人吉城歴史館（ガイドンス施設）の床上浸水や園路・防護柵の損壊等城内の広範囲で被害が発生した（図3-6）。



〈凡例〉

- | | | |
|----------|-------------|------|
| — 史跡範囲 | 石垣孕み出し | 法面崩落 |
| 土砂堆積 | 石垣背面洗堀・地面陥没 | |
| 復元建造物等浸水 | ● 復元堀浸水 | |

図3-6 人吉城跡被害状況図

4 被害確認後から復旧開始までに行われた措置

被害確認後の7月4日から人吉市は、安全確保のため被災箇所の立入禁止措置を行った。また、孕みの拡大

が確認された御館跡北側石垣前面にはき損拡大防止を目的として大型土のうを設置した。

また、令和2年（2020年）8月21日には、人吉市からの呼びかけに応じた県内文化財担当職員等（計41名）によって復元櫓建造物床下堆積土砂の撤去がボランティアで行われた。なお、この作業で取り外した床板は復旧工事に備え保管された。

5 復旧事業

（1）事業期間

令和2年度（2020年度）～令和9年度（2027年度）予定

（2）事業主体

人吉市

（3）復旧の概要

人吉城跡の復旧に当たっては、御館跡池泉及び御館跡南側水堀を宗教法人相良神社、それ以外を管理団体が実施している。ここでは、人吉市が実施している復旧工事について概観する。

まず、曲輪は、令和2年度から令和3年度（2021年度）にかけて三の丸北側斜面崩落箇所の復旧を行った。復旧箇所のうち東側は法枠工、東側は布団かご工で復旧した。いずれの箇所も球磨川に面しており、三の丸北側斜面は人吉城跡を代表する景観の一部となっている。そのため、工事では植生吹付けやモルタルの色付けを行い景観に配慮した（写真3-7）。西外曲輪は、令和2年度から令和3年度に堆積土砂を撤去し、令和4年度（2022年度）に便益施設を復旧した。多くの陥没が発生した北外曲輪は、令和3年度に水みち調査及び発掘調査を行い陥没の原因や遺構への影響の有無を確認した上で、令和4年度から令和5年度（2023年度）に陥没箇所の埋戻し等を行った（写真3-8）。

石垣は、令和2年度から令和3年度にかけて孕みが拡大した御館跡北側石垣の解体・

積み直しを行った。球磨川に面し孕みとともに間詰石の流出、築石の開きが発生した北東隅石垣は、令和4年度（2022年度）から間詰石の充填を行い、北東隅石垣西側の石垣は、令和8年度（2026年度）に孕み部分の解体、積み直しを行う予定である。

復元建造物は、令和4年度に漆喰壁の塗り直し、床材の張替、瓦の葺き直し、石落としの修復を行った。

ガイダンス施設である人吉城歴史館は、有識者会議や市役所、市民による検討・調整を経て令和4年度から現地での復旧を進めており、令和7年（2025年）7月にリニューアルオープンした。

（４）活用した補助事業等

国庫補助	県費補助	市町村費補助	民間助成	その他
○	○			

【国庫補助事業】

- ・国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金／歴史生き生き！史跡等総合活用整備事業（災害復旧）／補助率 70%
- ・国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金／歴史生き生き！史跡等総合活用整備事業（一般）／補助率 50%
- ・国宝重要文化財等防災施設整備費補助金／重要文化財等防災施設整備事業（災害復旧）／補助率 70%
- ・公立社会教育施設災害復旧費補助金⁴¹／補助率 2/3

【県費補助事業】

- ・熊本県文化財保存整備費補助金／文化財災害復旧事業（令和2年7月豪雨）／補助率 5%以内

6 その他

令和2年7月豪雨発災時、人吉城跡では石垣カルテ⁴²が作成されておらず、御館跡北側石垣等の被災前の状況を詳細に把握することができなかった。そのような状況を受け、人吉市では令和3年度（2021年度）に石垣カルテ作成に向けた準備と今後の災害への備えとして城内すべての石垣の三次元計測を行った。

その他、水損した前原勘次郎植物標本は前述のとおり県博物館ネットワークセンターにより救出され、全国の博物館等の協力により洗浄・乾燥・修復の処置が行われている。処置が終わった植物資料は、令和3年度以降随時人吉市に返却されている。

⁴¹ 人吉城歴史館展示資料の復旧に活用した。

⁴² 石垣カルテは、日常的な観察による概況把握及び日常的な維持管理の2つの側面を通じて得た基礎情報を踏まえ、さらなる調査研究（基本調査・追加調査）により段階的に収集した情報をも含め、石垣の各区間の現状に関する情報を系統的に整理した資料である（文化庁文化財部記念物課編 2014『石垣整備のてびき』p.69より転載。）。



(令和2年7月6日・人吉市教育委員会)
被災状況



(令和4年6月9日・文化課)
復旧状況

写真 3-7 人吉城跡三の丸北側斜面（北から）



(令和3年4月5日・人吉市教育委員会)
被災状況



(令和7年3月30日・文化課)
復旧状況

写真 3-8 人吉城跡北外曲輪（東から）

【復旧事例】

あいら
相良のアイラトビカズラ

1 基本情報

(1) 種別

国特別天然記念物

(2) 指定年月日

昭和15年（1940年）8月30日

国天然記念物指定

昭和27年（1952年）3月29日

国特別天然記念物指定

昭和51年（1976年）3月31日

国特別天然記念物追加指定

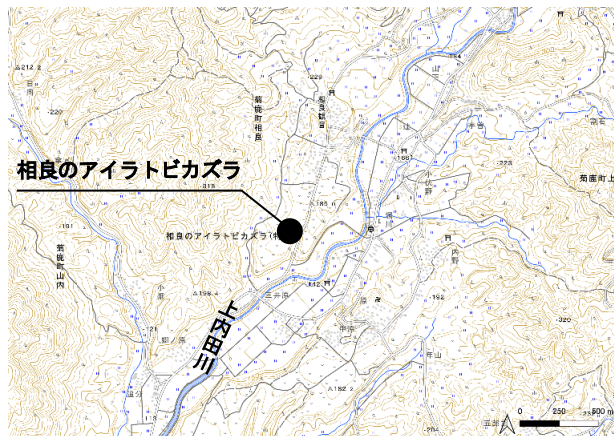


図3-7 相良のアイラトビカズラ位置図

(3) 所在地

山鹿市

(4) 所有者

山鹿市（管理団体 山鹿市）

(5) 文化財概要

相良のアイラトビカズラ（以下「アイラトビカズラ」という。）は、中国揚子江沿岸に分布するマメ科つる性植物の一種で、国内では山鹿市菊鹿町のみで自生する⁴³。

例年4月下旬から5月上旬頃の開花時期になると、暗紅紫色の花がブドウの房のように垂れ下がる。樹齢は約1,000年との伝説がある。

2 浸水状況

アイラトビカズラ周辺は今回の豪雨による浸水被害はなかったが、近隣にある菊池の観測地点によると時間雨量最大60mmの非常に激しい雨が観測されている。

3 被害概要

アイラトビカズラが根を張る法面2箇所が崩落した。南側は底辺約3m、高さ約5mの三角形、北側は上辺約7m、下底約10m、高さ約5mの台形状に崩落した。

⁴³ 相良のアイラトビカズラのほか、相良寺（山鹿市）、東福寺（菊池市）、熊本大学大学院薬学教育部附属薬用植物園（熊本市）等で管理されている。

4 被害確認後から復旧開始までに取られた措置

法面の崩落に伴い土砂が流出したことによって、アイラトビカズラの樹根が日に照られ、生育に影響が出る可能性が懸念されたことから、山鹿市によって崩落した法面に張る樹根を寒冷紗で覆う応急処置がとられた。

また、アイラトビカズラ生育地下の駐車場に流出した土砂は、復旧時の再利用を考慮しビニールシートで覆い現地で保管された。

5 復旧事業

(1) 事業期間

令和3年度（2021年度）

(2) 事業主体

山鹿市

(3) 復旧の概要

既存の石積み擁壁の上にコンクリート擁壁を設置し、擁壁の嵩上げを行った上で生育地斜面に土砂を充填した。充填した土砂の量は、崩落以前に復旧する程度とし、崩落土も再利用した。また、トビカズラの根が及んでいない斜面の岩盤部分に土留めとして鉄筋を等間隔に挿入したうえで杭間に生分解性植生シートを張り、表土流出を防止し工事を完了した。

(4) 活用した補助事業等

国庫補助	県費補助	市町村費補助	民間助成	その他
○				

【国庫補助事業】

- ・国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金／歴史生き生き！史跡等総合活用整備事業（災害復旧）／補助率 70%



（令和2年7月8日・山鹿市教育委員会）
被災状況



（令和4年2月・山鹿市教育委員会）
復旧状況

写真3-9 相良のアイラトビカズラ（東から）